

子どもの未来のために 鳥取は何に取り組むのか

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば
村井 琢哉

自己紹介：村井 琢哉

- ・ 特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば 理事長
- ・ 1980年設立
- ・ 地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。子どもと大人が一体となってものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ちあいたい”との願いを大切にして日々の活動をしています。あらゆる人にとって自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にします。

山科醍醐こどものひろばの主な活動

子どもたちとともにつくる活動

育ちの状況や関心にあわせ子ども達が主体的に関わる活動を展開

子どもたちとともにくらす活動

貧困世帯や、虐待、不登校、発達障害など

生活上で支援が必要な現状のこどもや家庭を支援

主に個別での生活支援(夕食、入浴、余暇 など)や学習支援を行う

子どもとともに育ちあう環境づくりの活動

地域のお他組織や行政、学校機関などと連携し、

こどもが暮らしやすい地域の創造と地域課題の顕在化、課題の周知・提案活動

特別な活動ではなく
まちに在り続ける活動

2015年の国民生活基礎調査結果（厚生労働省 2017年6月27日）

【相対的貧困率】

16.1%（2012年）→**15.7%**（2015年）改善

【子どもの貧困率】

16.3%（2012年）→**13.9%**（2015年）改善

【ひとり親家庭の貧困率】

54.6%（2012年）→**50.8%**（2015年）改善

【所得中央値】

244万円（2012年）→244万円（2015年）変化なし

【貧困ライン】 122万円 変化なし

- ・この間消費増税があり。
- ・所得では改善傾向ではあるが、諸外国との水準からするとまだ高い。
- ・現場で受け入れる子どもの数が減っているわけでもない。

その他の子どもを取り巻く状況（厚労省・文科省ホームページより）

【児童虐待】相談件数：**159,850件（2018）**

身体的虐待：40,256件　性的虐待：1,731件

ネグレクト：29,474件　**心理的虐待：88,389件**

【いじめ】認知件数：**543,933件（2018）**

※児童生徒 1,000 人当たりの認知件数は 40.9 件

小学校：**425,844件**　中学校：**97,704 件**

高等学校：**17,709件**　特別支援学校：**2,676 件**

【不登校】

小・中学校不登校児童生徒数：**164,528人(2018)**

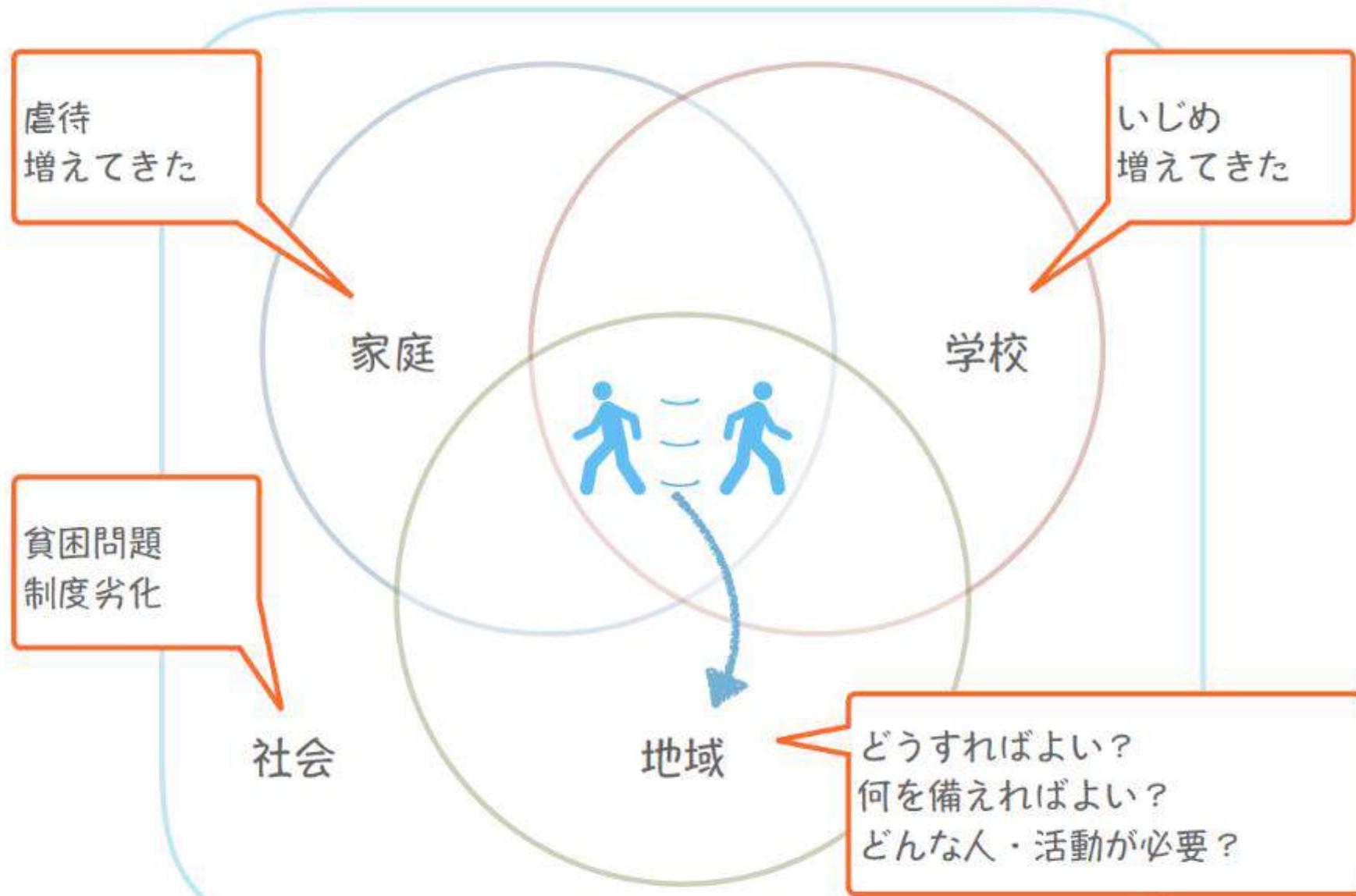
小学校：**44,841人**　中学校：**119,687人**

高等学校：**52,723人**　中途退学者数：**48,594人**

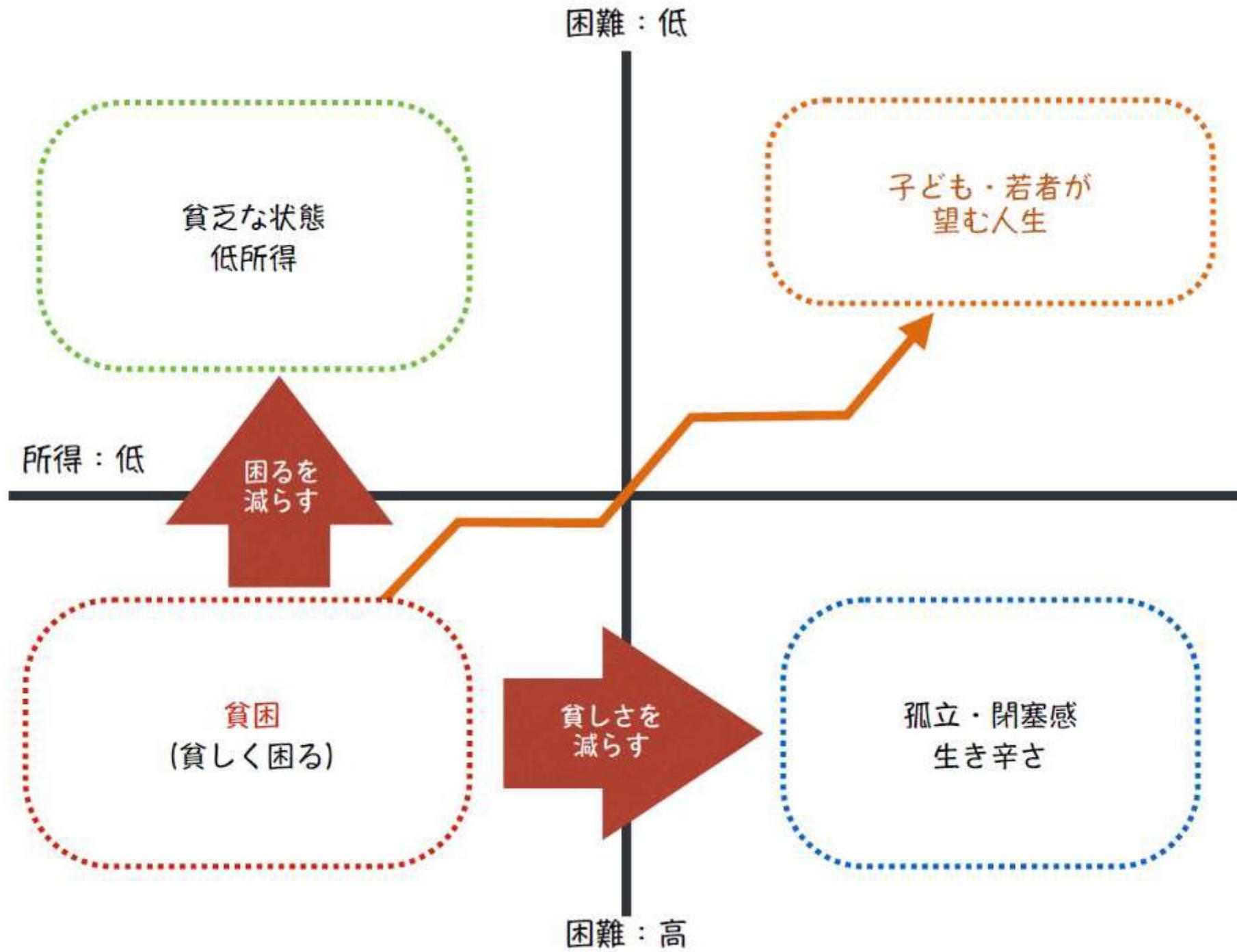
【自殺】**245 人(2016)→250 人(2017)→332人(2018)**

小学校 5人(前年度 6 人)、中学校 100 人(前年度 84 人)

高校 227 人(前年度 160 人)



現状行き場がなくなったときの受け皿はどこに生まれている?



社会生活・環境

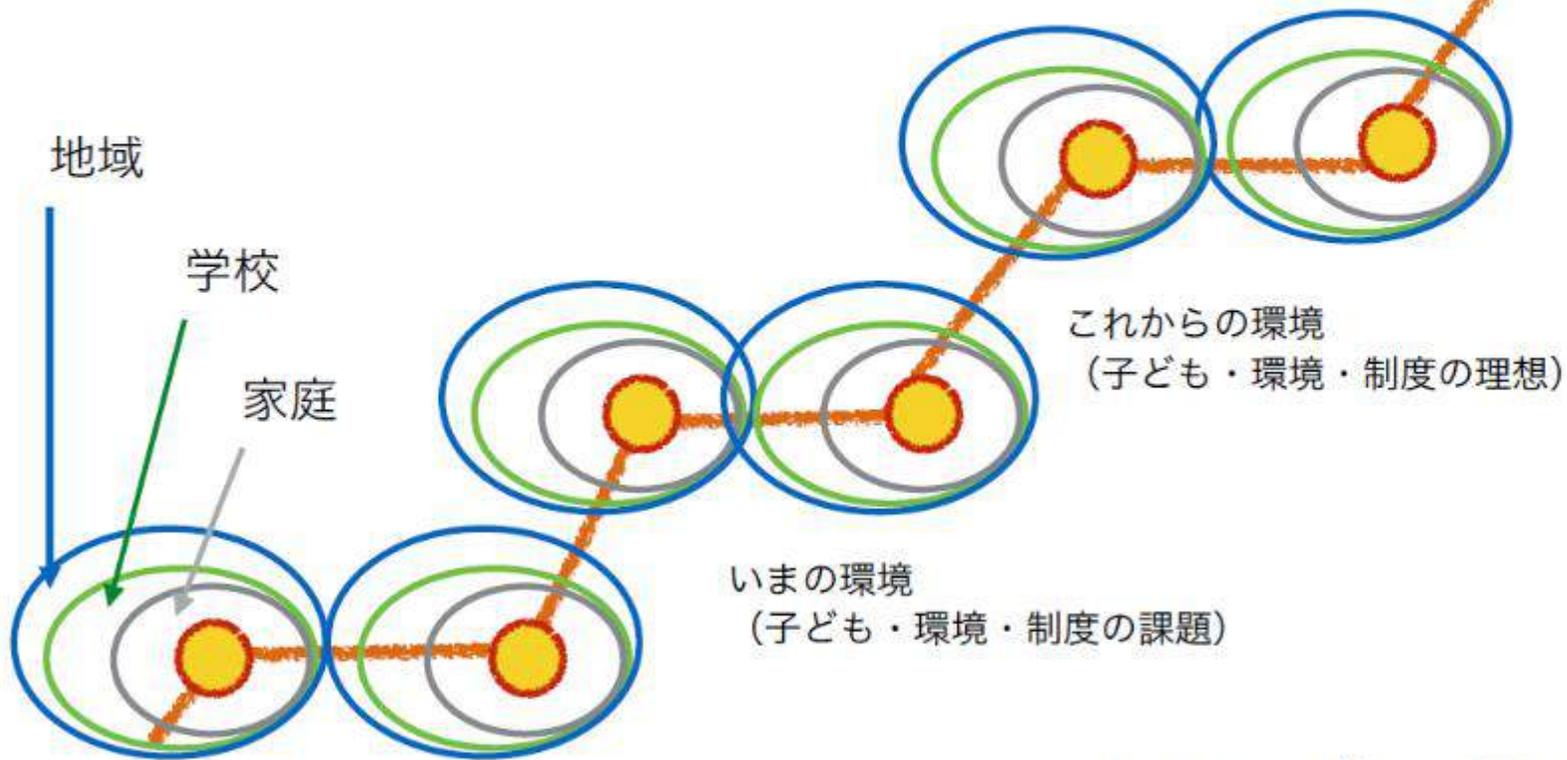
変化を創るポイント
継続・安定の段階

目指す社会
生きたいと思う未来

地域

学校

家庭



これまでの環境
(子ども・環境・制度の現状)

いまの環境
(子ども・環境・制度の課題)

これからの環境
(子ども・環境・制度の理想)

システムの修正・開発
運用者の姿勢・構え

多くの国で、所得階層の最下層の人々が出世するチャンスはほとんどなく、最も裕福な人々の大半がその財産を維持している。
すなわち「**社会階層のエレベータは壊れている**」のである。

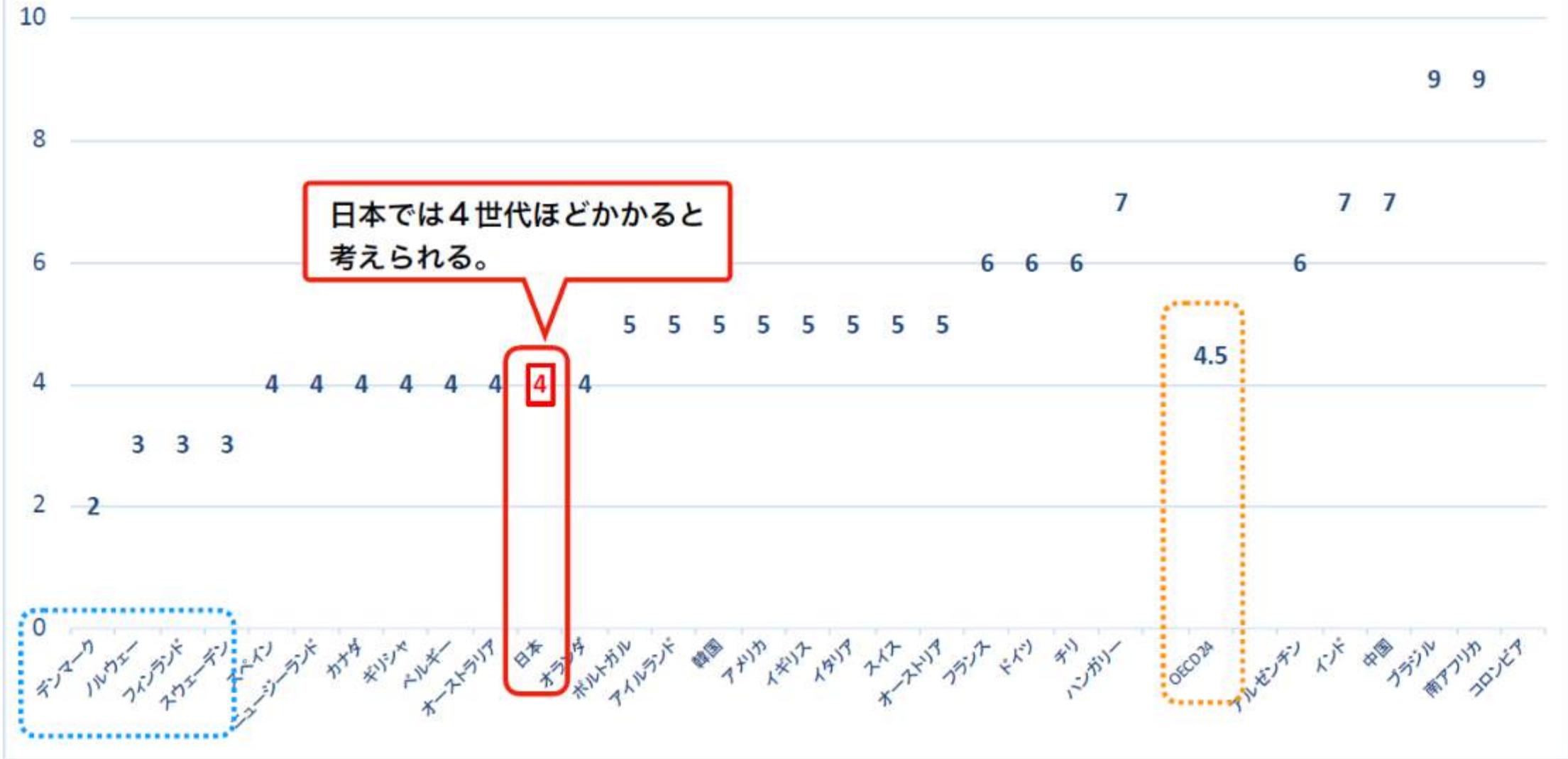
これは、**経済的、社会的、政治的に有害な結果**をもたらしている。
上への流動性がないと多くの才能ある人材を失うことになり、潜在的な経済成長が損なわれる。
また、**生活満足度、幸福度を低下させ、社会的つながりを弱める。**
社会的流動性は最下層の人々の間で低く、
いわば「粘着力のある床」が人々が**上へと移動するのを阻んでいる**のである。
また**最上層の社会的流動性はさらに低い**。天井にも「粘着力」があるのだ。
さらに、**中所得世帯は生涯を通じて、低所得層や貧困層に転落するリスクと隣り合わせ**である。

人々の経済状況は親のそれと相関関係にある。
日本における不平等の水準と、ある世代から次の世代への流動性を考慮すると、
所得階層の最下層の家庭に生まれた子どもが平均所得を得られるようになるまでには、
少なくとも4世代分の時間を要する。

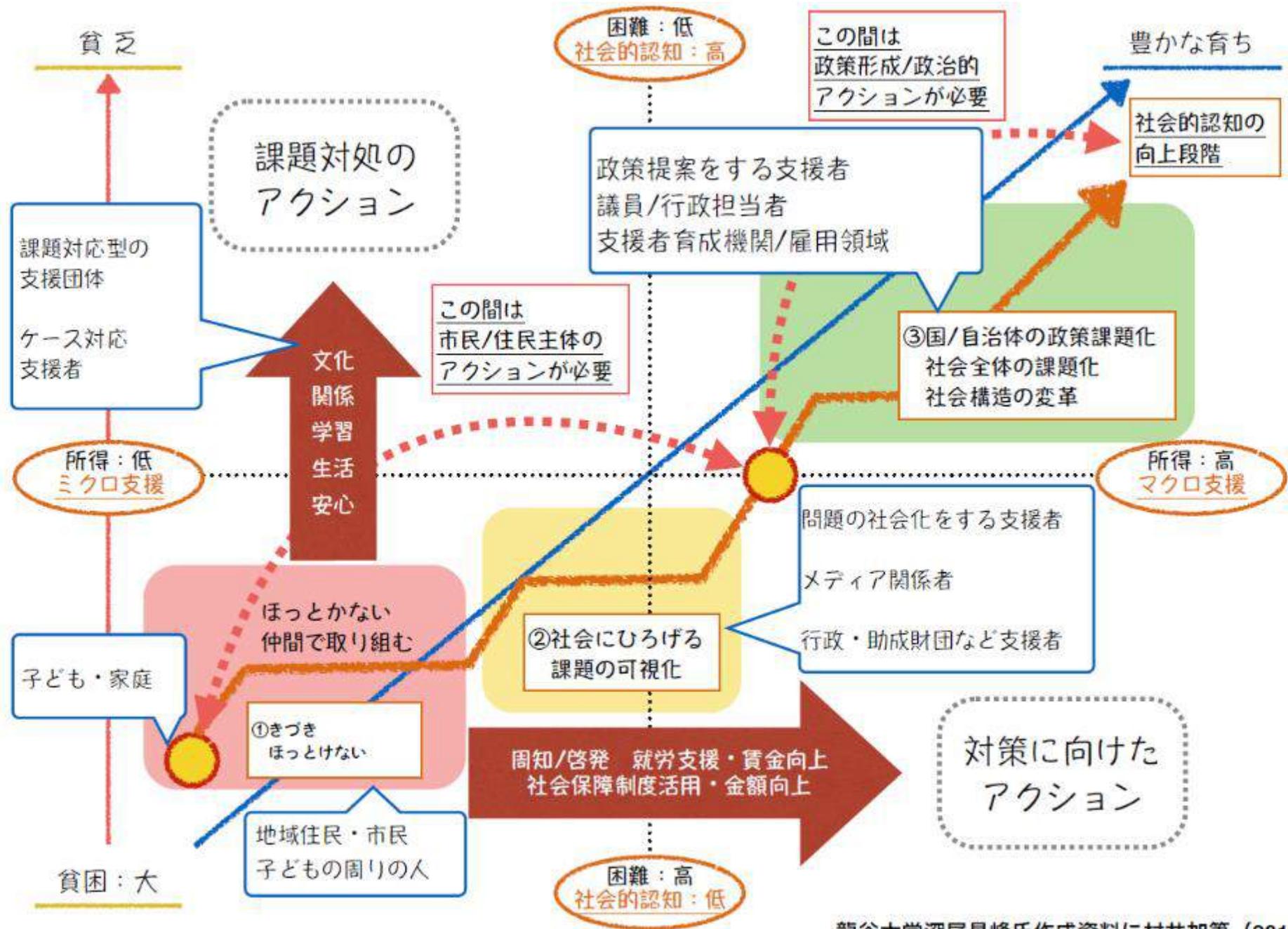
OECD(2018)社会階層のエレベータは壊れているのか？

<http://www.oecd.org/japan/social-mobility-2018-JPN-JP.PDF>

低所得家庭の子どもが平均所得を得られるまでに要する世代数（推定）



注 この試算は父親と息子の利益持続性(弾力性)に基づいている。低所得家庭は所得第1分位、人口の下位10%と定義される。
 出典：A Broken Social Elevator? Chapter1. StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888933761910> 参考に筆者作成



実際やっていることは「当たり前」の埋めなおし

- まずは**安全・安心**の確保（食事、居場所）
- **自己肯定感**の獲得（体験活動、学習支援）
- **保護者**のサポート（保護者会、サロン）
- **小学校・中学校**を応援（放課後支援、土曜教室等）
- **人材育成**、ノウハウ蓄積・共有
- 地域の**支援ネットワーク**の構築・活動応援
- 子どもの貧困問題の**周知・政策提言**

子ども・若者の“LIFE”を意識して

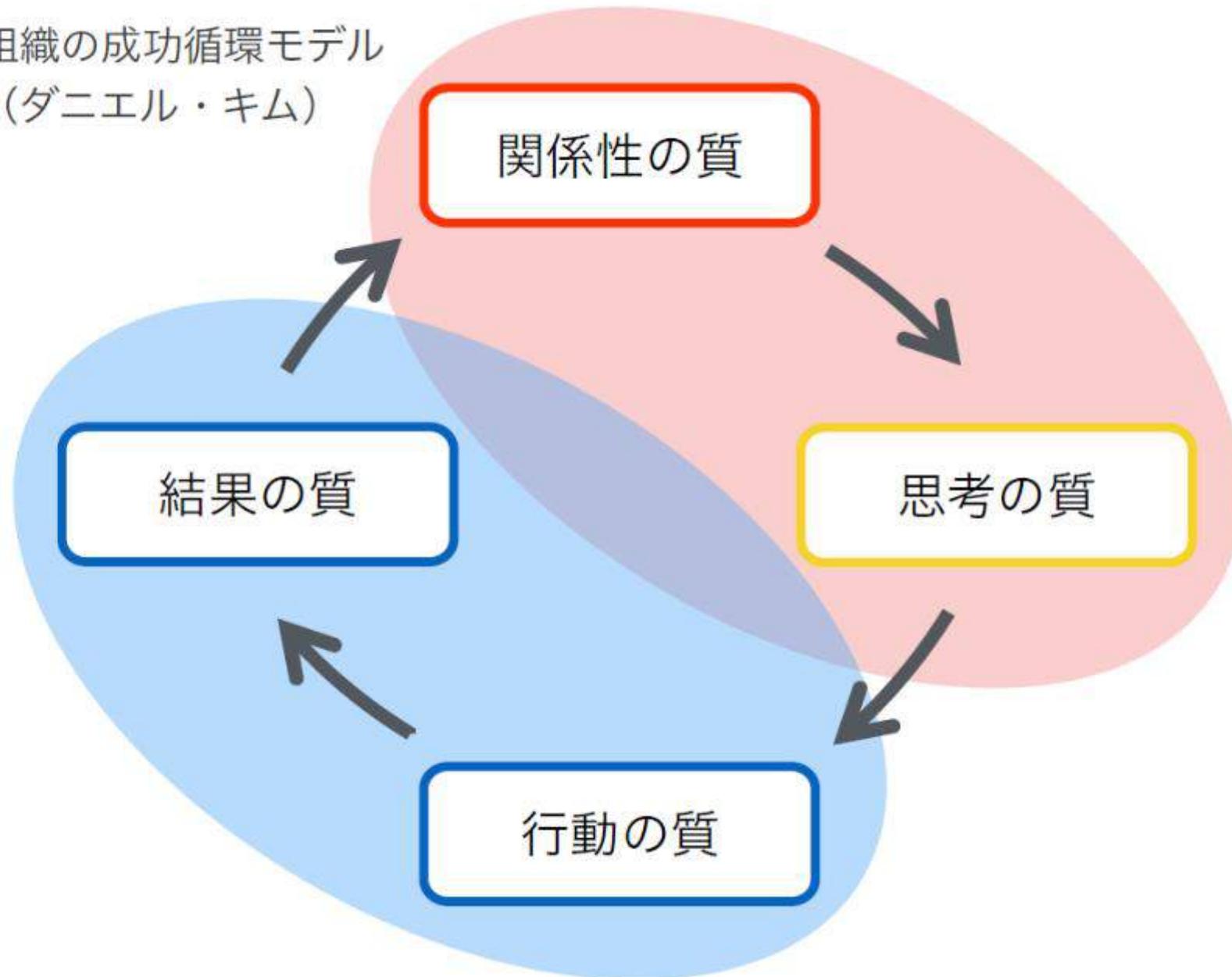
LIFEは、

「命」 (今)

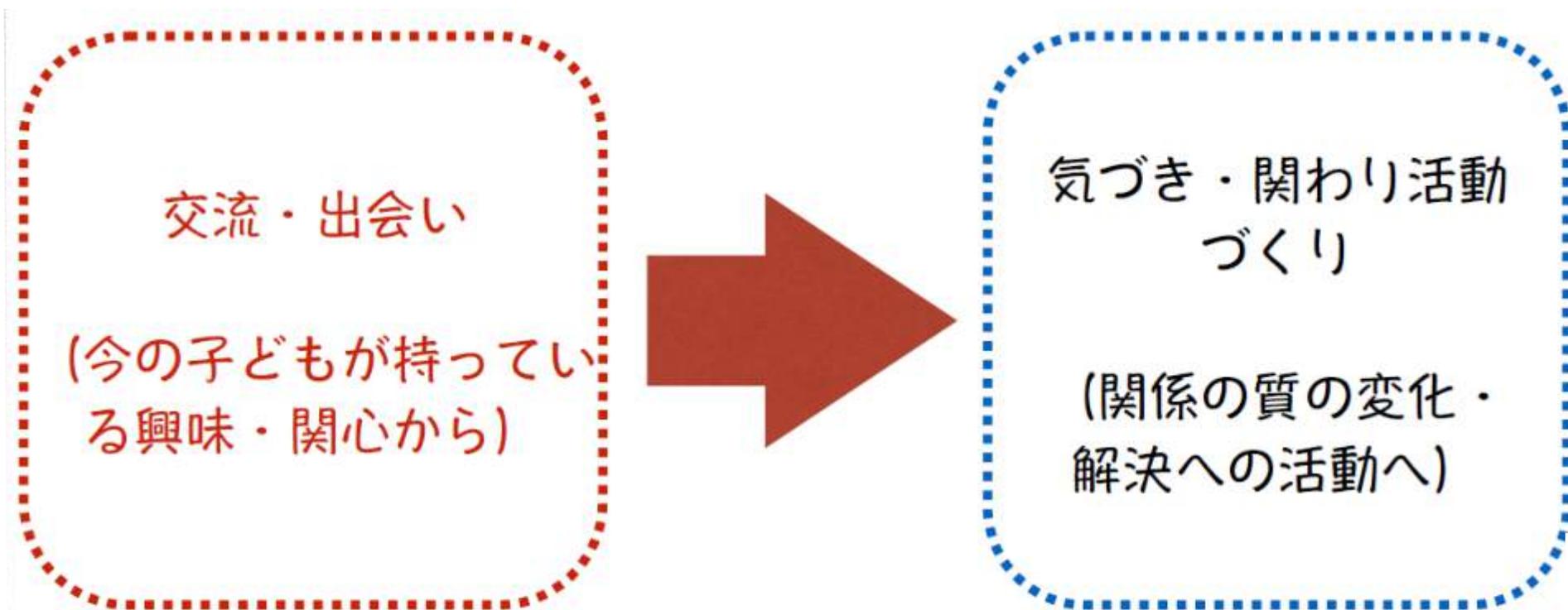
「生活」 (日常)

「人生」 (これから)

組織の成功循環モデル
(ダニエル・キム)



まずは、振る舞いから
(文化をつくる)



相談・支援ができる状態にどのように向かっていくか
普段の関わりがあるから気づきが生まれる。

どんな言葉をかけるか

足し算の言葉がけ(肯定形)

対等・対話・モデル・主体性

※本人の現状からどのようなことができたかを自覚し理想（なくてもよい）に向ってどれだけ「できたか」を認識。

※理想が内発的

引き算の言葉がけ(否定形)

上下・指示・指導・評価

※理想からどれだけ離れてるかを伝えることで「できていないこと」を認識。

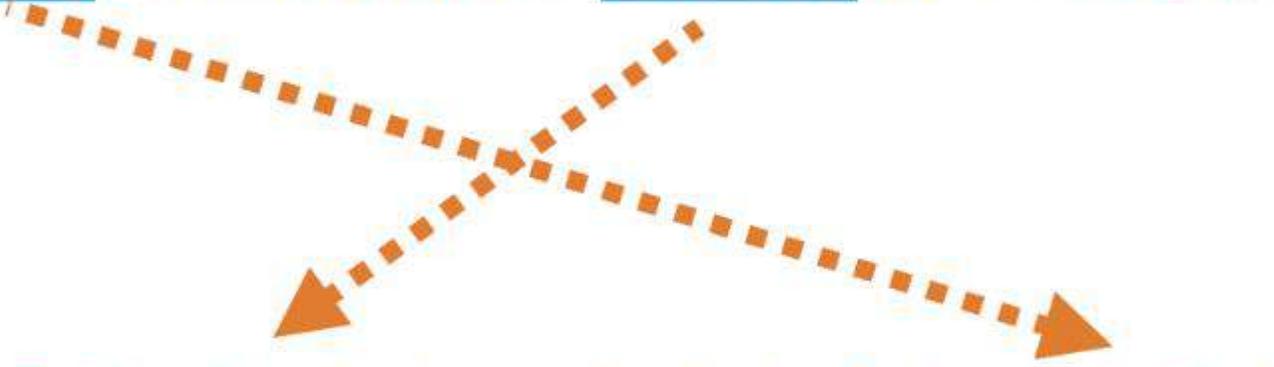
※比較対象があり序列

※理想が外発的

「わからない」「できない」
が言える環境ですか？

安心があると、失敗とも付き合える（信頼関係）
（まだ自分じゃない部分と向き合う）

「鳥取の未来を担う子どもたちを支える」



「子どもたちの未来を支える鳥取」



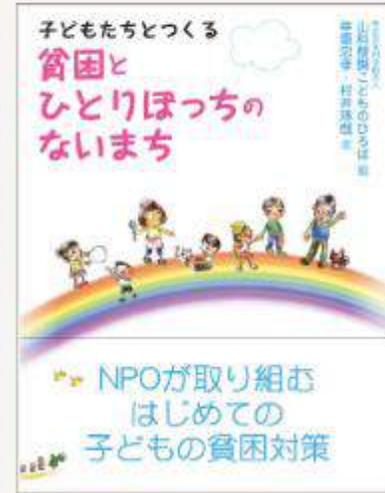
Sharing smile with your neighbor makes the world a better place
「笑顔を隣人と分かち合えば、世界はもっと良い場所になる」

書籍絶賛発売中



① 【新作】
まちの子ども
ソーシャルワーク
(かもがわ出版)

価格：1,400円

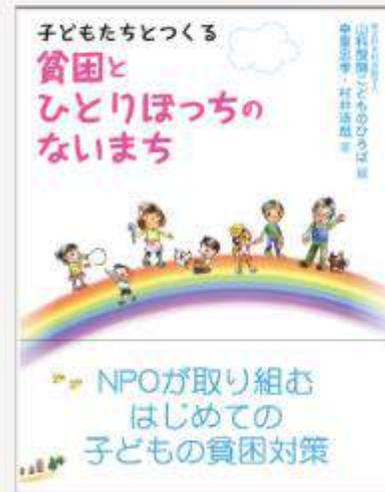


② 【前作】
子どもたちとつくる
貧困とひとりぼっち
のなймаち
(かもがわ出版)

価格：1,200円



+



=

価格：2,500円